



レビー小体型認知症サポートネットワーク福岡 第 24 回研修会・交流会



2023年4月12日(木)に第24回研修会・交流会を天神・BiVi福岡で、協力医 合馬慎二先生の司会のもと開催しました。新型コロナウイルスの感染対策として、参加者の皆様にはマスクを着用しご参加いただきました。11名の方にご参加いただき、ご本人2名、初参加3名でした。

はじめに、顧問医である坪井先生から、レビー小体病認知症についてレクチャーがありました。

レクチャー

- DLB 診断が困難な理由として、初期には認知障害が目立たないことが多く、幻視やそれに基づく妄想や抑うつが主体で CT や MRI の変化が乏しいことが多い。多少ともアルツハイマー病病変を合併しやすい。パーキンソン症状や自律神経症状で初発することも少なくない。
- 早期診断の重要性として、DLB は最も周辺症状 (BPSD) を起こしやすい認知症であり、そのため患者も苦しみ、介護者の苦勞も多い。そのため、早期に適切な治療をすることにより、苦痛の軽減や負担の軽減につなげることが必要。

グループワーク

顧問医、協力医を囲み、DLBSN 代表森本さんの進行のもと、現状や相談ごとについて語り合いました。そのうちのいくつかを紹介します。

- 症状は幻視から始まった。物忘れはない。週3回デイサービスに行くようになって明るくなった。一緒に暮らしていないため、毎日日記をつけてもらっている。良い時と悪い時があるので、日記を見ると状態が把握できる。幻視を信じているようで、なんと返事をしてよいかわからない。

→幻視を自覚している人としていない人がいる。過去の記憶から出てくることが多い。信じて

いる人には否定も肯定もよくない。つらいねと共感することがよい。否定をすると本人が混乱する。

→錯視は形あるものが違うものに見えること。たとえば壺が人に見えたり、ハンガーに服をかけておくと人に見えたりする。寝ていて起きたときに見えることが多い。本人が自覚していれば、周囲が違うとってあげると消えることがある。2階に誰かいるという場合、2階に上がれないようにしたり、家のセキュリティをあげたと嘘でも言ったりすると安心することがある。

- 介護をしている父が母にきつくあたることがある。

→介護をしている人の気持ちをわかってあげることが必要。介護をしているお父さんのことをいたわってあげてはどうか。

次回の研修会・交流会は、2023年7月13日（木）18時～

BiVi 福岡 6階会議室です。

*参加の際には、マスクの着用、自宅での体温測定をお願い致します。



報告者：DLBSN 福岡 副代表坂梨左織